



西部センターだより 2号

H26.8.5

3SとV・S・O・P

昔の話から始めます。ある公民館主事の方がおっしゃった話が今でも心に残っています。公民館主事として大切なことは、三つあるとおっしゃいました。それは3Sという大変耳に心地よく、わかりやすいキャッチフレーズでお話されたために私の長期記憶にとどまったのだと思います。公民館主事に必要な資質「3S」とは何か、ここでご紹介します。

一つ目のSは、service サービス（そのままの意味です）のSです。二つ目のSは、smile スマイル（笑顔）のSです。三つ目のSは、smart スマート（賢明な）のSです。

地域住民にとって最も身近な社会教育施設の一つである公民館は、誰もが気軽に利用できて相談や学習、交流ができる場でなければなりません。利用がなければ、その存在意義が問われかねません。この3Sに代表される公民館主事に求められる資質は、今も全く色あせていない的を射た指摘だと思います。社会教育施設に勤務する者として、住民の皆さんの顧客満足度を十分に考え、常に相手の気持ちを考えたサービス(S)提供に努め、笑顔(S)でさわやかな対応をすることはとても大切なことです。また、住民の皆さんが要求される「要求課題」と社会教育施設側が求める「必要課題」を考える能力(S)も非常に大事な要素と言えます。この最後のSがなければ、変化の激しい時代の要請に応えた事業を推進することはできにくいように感じます。

このsmartに代表される資質をもう少しかみ砕くと、次の4つのアルファベットで表現できると思います。それは、V・S・O・P（お酒のブランディーの等級を表す言葉VSOPを連想する言葉ですが）です。なお、このキャッチフレーズは、私が以前読んだある教育雑誌に書いてあったものです。そこでは、教育者に必要な資質として記載されていました。ここにお断りしておきます。

- V: Vitality (ヴァイタリティー 元気、たくましさ)
- S: Specialty (スペシャリティー 専門性、得意分野)
- O: Originality (オリジナリティー 独創性)
- P: Personality (パーソナリティー 個性)



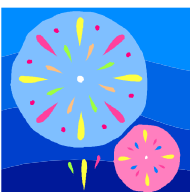
人間は、努力することを停止するやいなや進歩の道から墮落の道へ向かうという話を聞いたことがあります。私も3SとV・S・O・Pを忘れずに、社会教育に携わる者として自分の資質能力の向上に努めたいと思います。

所長 狩野 正夫

対象者別研修のご紹介

今年度から、「社会教育にかかわる人材養成研修」は、「対象者別研修」として実施しています。

「対象者別研修」・・・社会教育を推進する具体的方策を学ぶ研修を対象者別に提供するものです。このことにより、焦点を絞り、それぞれの受講者のニーズにあった研修(の内容)を提供できるようになります。



これまでに参加されたみなさんからは

- ・同じ役割・立場の人が集まるので、情報の共有、悩みの共有ができた。
(共感してもらえる人との出会いは、心強い！)
(地域は違っても目標としているところは一緒だと再確認した)
- ・研修内容がニーズにあっているのが、良かった。また、即実践につながれる
- ・事業をどう成功に導くかなど、流れや手法をいろいろ知ることができた。
- ・日頃時間が取れない中、担当者同士でじっくり協議できた。

などの感想を聞くことができました。

第1回コーディネーター研修 結集！しまねの子育て協働プロジェクト

期日：6月6日(金)

会場：島根県立大学浜田キャンパス

講師：興梠 寛(昭和女子大学特任教授)

コーディネーターの活動において、ボランティアにかかわる考え方は大切です。興梠先生の講義“縁結人(えんむすびと)になろう”では、ボランティアの意義や考え方を学びました。演習では、センター職員のファシリテートで、即答フリップ方式全員ディスカッションによって、「学校・地域のつながりが豊かになるコーディネートの視点や動き」について考えました。受講生の皆さんの熱心なやり取りがかわされました。

講義



演習



○地域の人たちは、子どもたちの教育に参加する必要がある。学校はその活動ができる環境を用意、いざなうのは“縁結びコーディネーター”

○「志は高く、ハードルは低く」ボランティアは簡単なことからよい。気分よく気持ちよく・気がつけばボランティアをやっていたと思わせるテクニックが必要

○必要、大切とされている・このことが感じられるようなメニューを提供しよう

Q. ボランティアを色に例えると？

Q. これからコーディネーターとしてやってみたいこと？..などなど

受講者の声

- ・コーディネーターの仕事は、自分が考えていた内容より楽しくやりがいのある仕事だと思った。
- ・ボランティアの原点やあり方など講義で楽しく学べた。午後の演習も、みなさんの意見が聴けてとても勉強になった。

第1回公民館等職員研修 魅力ある！青少年体験活動プログラムをつくる

期日：6月30日(月)

会場：いわみーる

講師：神田 智・須藤 貴行

(島根県立少年自然の家 社会教育主事)

神田・須藤両社教主事からは「青少年体験活動の意義とプログラムづくりのポイント」について講義をしていただきました。その後、「プログラム作成の留意点」の説明を受け、実際に「青少年宿泊体験活動プログラム」を立案しました。



プログラム立案

体験活動(自然・生活)によって・「生きる力」につながる資質や能力の向上が期待できる、自己肯定感が高まる・・・

体験活動立案の視点

- ・時間的なゆとり・失敗から学ぶ・ふりかえりをし次にいかす、目標を設定する・安全管理
- ・普段の快適な生活空間から困難さ、がまんを感じられるプログラムや共同の生活体験を・・・

長期宿泊体験活動(3泊4日以上)の必要性！

(設定は)通学合宿・宿泊体験・自然の家を利用して事前に実態把握、ねらいを明確に、ねらいを共有化、プログラムができれば複数でチェック、ふりかえりの機会をつくる

市町村 社会教育担当者研修

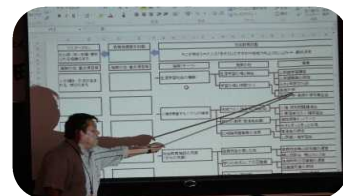
期日：7月8日(火)・9日(水)

会場：県立少年自然の家

市町村社会教育担当者が、社会教育計画策定に関わる意義や効果、手法を理解することをねらいとした研修が行われました。担当者みなさんは「何のために、何を、どこまで、どんな効果が得られるのか」等を意識しながら、また、他部局との連携も考え、「社会教育計画」作成に熱心に取り組んでいました。



社会教育策定の留意点



- ・自治体の社会教育の現状を把握する
- ・行政主導型から協働の視点に立つ
- ・自治体の現状分析に基づき、課題・目標を明確にする
- ・計画段階で評価指標をたてる
- ・目標は具体的に・アウトカムを指標化する等・・・

受講者の声

- ・自分の中で体系化できたことがよかった。マスタープランから考えていくことで連携について具体的に考えられた。新しいネットワークができて良かった。
- ・実際に計画を作成することができ、研修にすぐに生かせ、有効な内容の研修であった。